

平成 22 年 10 月 25 日

各 位

会 社 名 ヤマトホールディングス株式会社
代表者名 代表取締役社長 瀬戸 薫
(コード番号 9064 東証第 1 部)
代表取締役
問合せ先 常務執行役員 施設戦略担当 神田 晴夫
(電話番号 03-3541-4141)

子会社（ヤマト運輸）による固定資産（羽田物流ターミナル）の取得に関するお知らせ

当社は、平成 19 年 12 月 25 日に公表いたしました「固定資産の取得に関するお知らせ（羽田地域の大型施設用地等）」に基づき、その詳細計画を鋭意検討してまいりましたが、平成 22 年 10 月 25 日開催の取締役会において、ヤマトグループのヤマト運輸株式会社（本社：東京都中央区 代表取締役社長 木川 眞）が、下記のとおり「羽田物流ターミナル」を着工することについて決議しましたので、お知らせいたします。

1. 取得の理由

物流の陸海空のゲートウェイとして最適な羽田空港の隣接地に、ヤマトグループの国内配送ネットワーク、フォワーディング、ロジスティクスの各機能を融合させた国内最大級のターミナルを建設することで、国内外の一貫物流を実現し、国内外のお客様の利便性をさらに向上させることを目的としています。

2. 取得資産の内容

資産の内容及び所在地	今回決議額	現 況
羽田物流ターミナル 敷地面積 102,772.11 m ² 東京都大田区羽田旭町 11 番 1 号、 11 番 6 号、1904 番 2 号	45,780 百万円	平成 22 年 9 月 30 日に土地明渡しが完了し、平成 23 年 1 月の着工を予定しております。

3. 取得の日程

(1) 取締役会決議	平成 22 年 10 月 25 日
(2) 着工時期	平成 23 年 1 月
(3) 竣工時期	平成 24 年 7 月
(4) 稼動時期	平成 24 年 10 月

4. 今後の見通し

当該固定資産の取得による平成 23 年 3 月期の連結の業績見通しへの影響は軽微でございます。

5. 設備投資額

	概要	金額
平成 19 年 12 月 25 日 取締役会決議	土地及び建物取得	84,500 百万円
平成 22 年 10 月 25 日 取締役会決議	建設及び荷役機器	45,780 百万円

以 上

【参考】

1. 当期連結業績予想（平成 22 年 7 月 29 日公表分）および前期連結実績

（単位：百万円）

	連結営業収益	連結営業利益	連結経常利益	連結当期純利益
当期連結業績予想 (平成 23 年 3 月期)	1,228,000	64,000	66,000	34,000
前期連結実績 (平成 22 年 3 月期)	1,200,834	61,388	63,313	32,282

2. 別紙

参考資料

平成 22 年 10 月 25 日
ヤマトホールディングス株式会社

「羽田物流ターミナル」を新設

ヤマトグループの総力を結集し、企業理念を具現化する ソリューション&ショーケース・ターミナルとして 2012 年から稼働

ヤマトホールディングス株式会社（本社：東京都中央区、代表取締役社長：瀬戸薫）は、ヤマト運輸株式会社（本社：東京都中央区、代表取締役社長：木川眞）が「羽田物流ターミナル」の着工を決定いたしましたので、お知らせいたします。

1. 「羽田物流ターミナル」の基本構想

「羽田物流ターミナル」は、今後のアジア圏の物流を取り巻く大きな環境変化に対応し、アジア全域におけるお客様のサプライチェーンマネジメントのニーズにお応えするための統合ソリューション・ターミナルであり、ヤマトグループの企業理念を具現化したショーケース・ターミナルです。

アジア経済圏の中核空港としての役割が期待される羽田空港に隣接した、約 10 万平米（約 3 万坪）の敷地に、ヤマトグループの各機能を結集させ、次世代型の物流ソリューションを提供してまいります。

物流棟を中心に総延べ床面積約 20 万平米（約 6 万坪）、東京ドーム 4 個分の広さを有する同ターミナルは、ヤマトグループ内で最大規模であることはもちろん、最新の環境対策と地域貢献施設を備えた、ヤマトグループを象徴する施設となります。

2011 年 1 月着工、2012 年 7 月竣工、同年 10 月稼働開始の予定で、設備投資額は約 542 億円の見込みです。

【事業のコンセプト】

「羽田物流ターミナル」は、ヤマトグループの中期経営方針における「グループ連携を徹底し、お客様の利便性が向上する流通イノベーションを実現する」ための中核的な事業施設です。

同ターミナルの事業コンセプトは以下の通りです。

「アジア市場の成長とボーダレス化、グローバル経営の加速、羽田空港の国際化、また IT の発展によるアジア圏の生活者の消費スタイルの変化といった時代のニーズに対応しうる“時空を超えた次世代の物流デザイン”をヤマトグループの総力を結集し、提供する」

【事業の目的】

国内及びアジア圏の一貫物流を実現し、企業と生活者の利便性をさらに向上させるとともに、施設やオペレーションを通じて、ヤマトグループの企業理念をステークホルダーの方々に実感し、理解していただくことを目的としています。

具体的には以下の2点です。

- ① 物流の陸海空のゲートウェイとして最適な羽田空港の隣接地に、ヤマトグループの国内配送ネットワーク、フォワーディング（輸出入貨物の工程管理）、ロジスティクス（物流戦略）を融合させた国内最大級のターミナルを建設することで、国内及びアジア圏の一貫物流を実現し、企業と生活者の利便性をさらに向上する。
- ② 地域から信頼され、共存共栄を図るヤマトグループの企業理念を具現化するターミナルとして、施設内の大規模な緑地化や最新の環境設備の導入に加え、地域貢献ゾーン「和の里パーク」を併設し、地域社会へ貢献する。
「和の里パーク」には障がい者の雇用と自立を支援するスワンカフェ・ベーカリーや、地域の方々にご利用いただく託児所、体育館のほか、夏にはカブトムシがいる里山を模した広場を配置し、子供たちや高齢者の方々の憩いの場所として、また災害時の避難場所としてご活用いただく。

2. 「羽田物流ターミナル」の施設概要

【施設の立地】

同ターミナルの新設地は、東京都大田区羽田旭町 11 番 1 となります。

羽田空港に隣接し、かつ大井埠頭や首都高速との好アクセスで、陸海空にわたる最適な輸送機能を提供します。

【施設の特徴】

- ① 世界に類を見ない、最新鋭マテリアルハンドリング（自動仕分け機）設備を備えた物流棟
 - 中核となる施設は、総延べ床面積約 17 万平米（約 5 万 1 千坪）、地上 6 階（縦 114m、横 240m、高さ 48.6m ※一般的な 12 階建てのビルに相当）から成る物流棟です。

- 物流棟には複数のグループ会社が入居します。各社の機能を効果的に融合するために各フロア間を縦につなぐグループ状の接続ベルトや、一つひとつの荷物の底面をスライドさせることで丁寧に仕分けする「大物仕分け機」、従来は機械化が困難だった非定型の小物用「小物仕分け機」など、最新鋭のマテリアルハンドリング機器を複合的に導入します。また、マテリアルハンドリングのラインを左右対称の配置とし、時間帯や用途によって可変性の高い稼働を実現する新オペレーションを導入することで、仕分け効率を飛躍的に向上させます。
- これらの設備により徹底的な自動化を図り、荷物処理能力を約 50% (※) 向上させるとともに、計 200 台を越えるトラックバース（トラックが着床する場所）との連携により、物流に関わる時間と移動距離を最小化します。なお、自動化による、作業人員および労働時間の低減率は約 44% (※) の見込みです。

※当社従来型ターミナル比

- ターミナル内の荷物の物量、作業状況を把握するシステムや、敷地内の車両を的確に誘導するシステムなど、最新のシステム導入を計画しています。
- 国内外のお客様に「次世代の物流ターミナル」を実感していただくためのプレゼンテーション施設や、施設見学コースを配備する予定です。

② 地域貢献施設

- 地域から信頼され、共存共栄を図るヤマトグループとしての企業理念にのっとり、ターミナル敷地内に「和の里パーク」（地域貢献ゾーン）を配置します。
- 和の里パーク内には里山を模した広場やフォーラム（体育館）、宅急便センターを配置し、地域の方々に自由にご利用いただくとともに、待機児童のニーズに応える託児所や障がい者の雇用促進と自立支援を推進するスワンカフェ・ベーカリーを併設し、地域との共生と雇用創出を積極的に推進することで、地域社会への貢献を図ります。

③ 環境への配慮

- 敷地内の大規模緑化と長寿命建築をベースに、特に物流棟内には「ボイド」と呼ばれる穴をあけ、そこから入る自然な光や地中からの冷えた空気を利用することにより使用電力の削減を図ります。
- 地域貢献施設では太陽光発電を積極的に活用し、地域貢献施設内の照明電力を全てまかさない（最大出力：約 180kw）。また雨水を利用した打ち水によって車路低温化を図り、ヒートアイランドを防止します。さらに施設全体でのゼロ・エミッションの推進を計画しています。

- これらの各種環境設備を導入することにより、施設全体の CO2 排出量は約 46% の低減が見込め、年間で約 14,000 t（ブナ天然林 3,200 ヘクタール=東京ドーム 約 700 個分の広さに相当）の削減となります。
- 以上により CASBEE※における最高位 S を目指します。

※ 「CASBEE」（建築物総合環境性能評価システム）は、建築物の環境性能で評価し格付けする手法。

省エネや省資源・リサイクル性能といった環境負荷削減の側面はもとより、室内の快適性や景観への配慮といった環境品質・性能の向上といった側面も含めた、建築物の環境性能を総合的に評価するシステム。

【(財) 建築環境・省エネルギー機構 (IBEC) HP 参照】

- またターミナル周辺エリアを宅急便集配の環境先進モデル地区とし、台車や新スリーター（リヤカーつき電動自転車）を利用した集配の拡大と EV 集配車の積極導入により、エリア内集配における CO2 排出ゼロを目指します。

3. 「羽田物流ターミナル」新設の背景とヤマトグループのビジョン

【新設の背景】

物流を取り巻く環境は羽田空港の国際化はもちろん、FTA（自由貿易協定）の拡大やサプライチェーンのグローバル化により、これまで経験のないほどのスピードとスケールで変化していくことが予想されます。

特に日本を含むアジア全域では、企業のサプライチェーンのボーダレス化が加速するとともに、クロスボーダーEC 市場の成長で生活者を起点とする物流や決済、情報など、より安全で効率的なソリューションへのニーズが一層高まると考えられます。

ヤマトグループでは、かねてからアジアと日本をひとつの経済圏としてとらえ、その域内で物とお金と情報がシームレスに行き来する『結節点』が必要であると考えてきたことから、羽田物流ターミナルの新設に至りました。

【新ターミナルが提供する主な機能】

ヤマトグループでは新ターミナルを通じて、日本を含むアジア全域における調達から生産、流通に至るシームレスで、効率的かつ安全・確実なネットワークの確立を目指します。

具体的には従来のターミナルに加え、下記の 4 つの機能を提供します。

① 「ダイレクト輸送機能」

海外から入荷した商品を国内の倉庫に在庫化することなく、到着後すみやかに通関、流通させる「ダイレクト輸送機能」により在庫拠点の圧縮を実現。物流コストの低減と効率化を提供します。

② 「グローバル・クロスドック機能」

海外から入荷した商品を小口仕分けし、素早く出荷する「グローバル・クロスドック機能」により、在庫回転率の向上と在庫量の極小化を実現。変化する市場へのスピーディな対応で、効率的な生産、販売態勢の確立を支援します。

③ 「マルチ輸送機能」

国内外にわたる複雑な物流モデルに、多彩な輸送手段を提供する「マルチ輸送機能」で、宅急便はもちろんのこと、お客様のニーズにあわせた陸海空にわたる最適な輸送モードを提供します。

④ 「製品・流通加工機能」

国内外を問わず、物流工程に製品加工やキitting、メンテナンスなどを付加する「製品・流通加工機能」により、エンドユーザーまでのスピーディで安全、確実な配達を実現します。

4. 「羽田物流ターミナル」が提供するソリューションについて

ヤマトグループがもつ多様な機能を、陸海空の結節点である羽田に一元的に集約することで、リードタイムの短縮、流通の見える化、在庫の極小化を実現するソリューションを提供します。

国際貨物に関しても、施設内で迅速に通関を行い、そのまま国内輸送にダイレクトに接続することが可能となるため、今までにないスピードと品質を提供できます。

【新ターミナルへ入居予定のグループ会社】

BIZ-ロジ事業	: ヤマトロジスティクス(株) ヤマトパッキングサービス(株) ヤマトグローバルロジスティクスジャパン(株) ヤマトマルチメンテナンスソリューションズ(株) ヤマト包装技術研究所(株)
ホームコンビニエンス事業	: ヤマトホームコンビニエンス(株)
e-ビジネス事業	: ヤマトシステム開発(株)
フィナンシャル事業	: ヤマトフィナンシャル(株)
デリバリー事業	: ヤマト運輸(株) ヤマトグローバルエクスプレス(株)

【複合的ソリューションの例】

① グローバルダイレクト・ソリューション

海外の工場、生産拠点から、ダイレクトに日本国内の店舗やお客様のお宅へ商品をお届けするソリューション。国内倉庫を必要とすることなく、海外からのスピーディな配送とコスト削減を実現します。日本国内から海外への展開も可能です。

② プレスト・ディストリビューション・ソリューション

国内外の工場、生産拠点から羽田物流ターミナルへ在庫を集中させることで、流通在庫の圧縮を図るとともに、マージ配送によるコスト削減を実現するソリューションです。

③ サードパーティーマニュファクチャリング・ソリューション

物流戦略の設計、構築、保管、運用のみならず、キitting、メンテナンス、リサイクル事業までを一括受注するソリューション。例えばターミナルで製品物流の最終加工を行い、カスタマイズ対応の取扱説明書を添付の上、お届けすることでリードタイムの圧縮とコストの削減を実現します。

以上